



マスク

先日、土曜日に地域の会合があつて学校に立ち寄つた際、校庭にあるゲートボール場で、地域の高齢者の方々が活動なさつていて、挨拶いたしました。屋外であり、十分な距離をとりながらでしたし、予防接種も複数回済ませた世代ということもあり、皆さん、マスクを付けずに談笑なさつていらつしやいました。私もマスクを外して挨拶いたしました。

短い時間ではありましたが、皆さんの楽しそうで優しい笑顔がとても印象的で、出会いや挨拶、人と人との交流とは本来こういうものだったと、改めて再確認することができたひとときでした。

「マスク」は現在、感染症予防のためには必須の物として、社会生活に深く定着しています。小学校においても、感染症対策として学校生活を送る上で欠かせない物となつており、子供たちがマスクを外すのは、登下校中、黙食で給食を食べるとき、体育で激しい運動をするときぐらいです。日頃から、子供たちも教職員も、お互いにマスクを付けて授業を行い、会話しています。お互いに、相手がどんな顔だったか忘れてしまうこともあり、中には、初めからマスクを付けた状態でしか接したことが無く、顔を知らないことさえあります。

「マスク」と言うと聞こえはいいのですが、日本語で言えば「覆面」です。覆面は、顔を隠すことを目的として使用するもので、目出し帽までいかななくても、「サングラスとマスク」と言えば、昔から現在に至るまで、犯罪者の必須アイテムです。

子供たちも含めて、現在の状況が長引く中で、マスクを外すことに強い抵抗を感じる人、マスクを外すことが恥ずかしいと感じる人が増えてきています。中には、黙食の食事中もマスクの隙間から食べたり、一人で運転する車の中やたった一人で過ごす時間にもマスクを外さない人さえいます。宅配業者が家庭に届け物をする際、玄関を開けたその家の住人がマスクを付けていないことに不快感を示す事例もあるそうですし、目からの感染も恐れて、「サングラスとマスク」が常態化している人もいます。

私は、子供たちには、顔を覆面（マスク）で覆うことが「当たり前」だとは思ってほしくありません。人間同士がお互いに顔を隠して接することは、本来、異常なことです。感染防止のための「マスク」は着用しながらも、「覆面」として顔を隠すことが目的では無いこと、覆面を外して接することが当たり前であり、平常時の基本であるという認識を忘れないでほしいと思っています。記念写真の撮影時等に「マスクをとって！」と声をかけても、嫌がって絶対に外そうとしない子供もいます。そう。「とらなくてもいい自由はあるだろう！」と言われれば、確かにそれは自由ですが、その子供のための、自分のための本当の「自由」だとは、とても思えません。

私は、初対面の人と挨拶をする際には、まず、黙ってマスクを外し、顔を見せながらお辞儀をして、その後、マスクを付けてから話を始めるようにしています。それは、私にとってのマスクは感染症防止のための相手への礼儀ではあつても、相手に対して自分の顔を覆い隠すための物ではないからです。

厳しい感染状況は続いており、適切なマスクの使用も含めて、まだまだ気を緩めることはできませんが、感染症防止対策に鋭意取り組みながら、一刻も早い状況の改善と、人と人との正常な交流を持つ日常が戻ることを強く願っています。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年11月18日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）